

「サルの野外行動観察実習」

京都大学霊長類研究所公開講座

2003年8月22日

担当 大澤秀行

はじめに

野外観察には、種々の行動観察（社会行動、繁殖行動、採食行動、行動発達、運動様式など）、音声伝達、分布調査、個体数調査、遊動調査、環境調査など様々あります。日本のサル学はこうした野外観察・野外研究に支えられて発展してきました。

今日の実習は霊長類研究所の中のエンクロージャーで行うため、自然での観察ではありませんが、自然状態と同じような群構成にして、自然に近い社会生活を営めるようにしてあります。従って生態的な観察には難点はありますが、社会行動等は比較的自然に近い観察ができます。

観察は2グループ(約15名ずつ)にわかれ、それぞれ別のニホンザルの群を観察します。各グループには実習担当として若手の野外研究者についてもらいますので、分からないこと等がありましたら、質問してください。

持参するもの：筆記用具（ノートは小さいものが望ましい）。他に双眼鏡があれば細かい観察ができる。カメラ、ビデオなどは好みに応じて持参可能。

グループ担当：下岡ゆき子 博士課程修了 南米・クモザルの社会行動研究
：竹元博幸 博士課程修了 西アフリカ・チンパンジーの採食行動

観察実習プログラム

1. 説明 大澤担当
2. 各エンクロージャーへ
3. グループ担当者からニホンザルの群の説明：ニホンザルの群の構成（オトナオス、オトナメス、ワカモノ、コドモ、アカンボウ）繁殖、社会関係（順位、血縁等）、配偶関係、子育て、自然群との違い（移出個体、移入個体、遊動、群間関係等）観察（この部分は、自分で構成してみてください。上の語句はその参考です）
4. まず数を数えてみましょう（オトナオス、オトナメス、コドモぐらいの記録も試みてよい）

5. 行動記録

1. 見たことを何でも記録
2. 目的を持った（あるきまった行動カテゴリーの）記録 例えは毛づくろい
関係、交尾、隣接個体、音声など

記録のしかた

1. 特定の個体の追跡（フォーカル・アニマルサンプリング）
2. ランダムサンプリング・スキャンニング
3. 雌雄一頭ずつを選び、個体識別表を各自で作成。似顔絵、傷等の位置等を画く。こ



写真：パタスモンキーの雌雄。
(身体サイズの性差に注意)

れに基づき個体追跡をする。

4．行動を記録して、行動の時間配分を測定する。またそれに基づき、後でどんな行動があったか皆で話し合う。

5．一位の雄や一位の雌などがいるか、観察中に注意する。

以上のような観察を通じて、サルの行動や行動観察法について理解を深める。

資料

行動記録用 レジメ

2003 公開講座野外観察実習

行動の種類 (エソグラム)

動作

身体動作

座る、横になる、うずくまる、4足で立つ、2足で立つ

歩く、早足、走る、跳ぶ、ぶら下がる、泳ぐ、

尾を上げる、尾を下げる、毛を逆立てる、木揺すり

四肢の動作

触る、つかむ、しがみつく、いじる、押す、引っ張る、叩く、転がす、引っ掻く

蹴る、毛づくろい(自分に)

頭、顔の動作

頭を下げる、鼻を近付ける、くわえる、鼻でかく、食べる、飲む、なめる、咬む、凝視、のぞき込み、見る、ちらっと見る、見ない(そむける/無視する)、眉を上げる、眉を下げる、耳を後ろに引く、顔をしかめる(cf.泣きっ面)、口を開ける、口を突き出す、歯をむき出す、歯をならす、あくび、無表情

目的行動

社会的行動(親和的行動等)

近づく、隣に坐る、身体接触、通過する、追従する、離れる、抱き合う、押し合う、プレゼンティング(雄間)、毛づくろいの誘い、マウンティング(馬乗り、雄間、cf.性行動)、社会的(他者への)毛づくろい

攻撃/防御行動

追い払い、威嚇、かみつく、追いかける、避ける、逃げる、泣きっ面、身体をこわばらせる、後込みする、助けを求める、介入する

母子行動

アカンボウ:しがみつく、乳首を探す、乳を吸う、這う、歩く、走る

母親:抱く、運ぶ、授乳する、引き留める、拘束する、罰を与える

その他の個体:(雌やコドモによる)子守行動、父性行動

遊び

一人遊び、遊びの誘い、レスリング、追いかけて、遊びに加わる、遊びから離れる、石遊び

性行動

先行 追従行動、示威行動(ディスプレイ)、身体を触る、プレゼンティング(雌雄)、マウンティング、射精、介入行動

音声分類の概略

感情的に平静な音声、防御的音声、攻撃的音声、警戒音、発情時の音声、アカンボウノコドモの音声

なお個体間の距離によっても分類できる。

(高畑 1985を改変)